



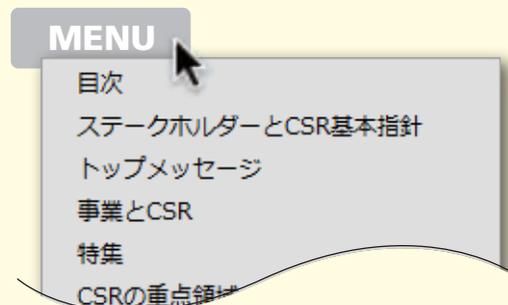
NTTコミュニケーションズグループ
CSR報告書
2014

目次

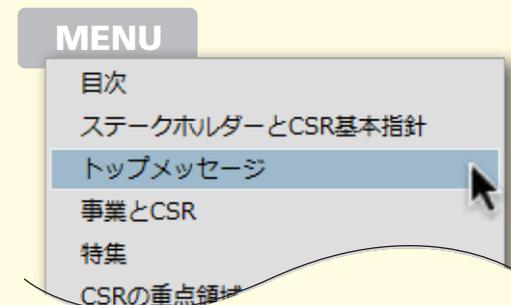
| | |
|---------------------------------------|----|
| 目次 | 01 |
| ステークホルダーとCSR基本方針 | 02 |
| トップメッセージ | 03 |
| 事業とCSR | |
| 事業ビジョン | 04 |
| 事業概要 | 05 |
| 特集 世界で選ばれる、 真のGlobal ICT Partnerへ。 | 07 |
| 社会への貢献 | 08 |
| 地球環境保護 | 10 |
| 人材の尊重 | 12 |
| CSRの重点領域 | 14 |
| 活動ハイライト | |
| 領域1 社会への貢献 | 15 |
| 領域2 地球環境保護 | 16 |
| 領域3 人材の尊重 | 17 |
| CSR報告について | 18 |
| 報告媒体について | 19 |
| 会社概要 | 19 |

使い方

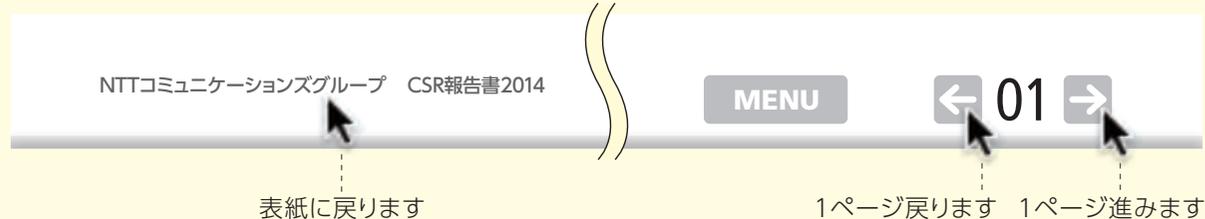
① MENUボタンをクリックすると、プルダウンメニューが現れます。



② 各カテゴリーをクリックすると、各カテゴリーのトップページへ移動します。



③ ヘッダー部分をクリックすると、下記のように動きます。



④ リンクボタンをクリックすると、外部の各ページへ移動します。



ステークホルダーとCSR基本方針

Global ICT Partnerに ふさわしいCSR活動の実践に 努めています。

NTTグループの一員として

NTTコミュニケーションズグループのCSR基本方針は、NTTグループCSR憲章を踏まえ、NTTグループ一体となり社会の課題解決に取り組んでいます。

NTTグループCSR憲章



NTTコミュニケーションズグループのCSR



トップメッセージ

社会的課題の解決と持続的発展のため、 グローバルに貢献してまいります。



NTTコミュニケーションズ株式会社
代表取締役社長

有馬 彰

世界経済は、米国が堅調に推移し、欧州においても持ち直しの兆しが見られたものの、新興国などでは総じて成長は緩やかなものとなりました。わが国の経済は、政府による政策効果なども背景とし、緩やかに回復しつつあります。

このような経済情勢のもと、世界の多くの企業が、競争力のさらなる強化を図るとともに、新市場への参入や新たな成長分野への投資など、積極的な経営を進めつつあります。そのような経営を支えるために、柔軟かつ強固なICT基盤が求められており、今後さらなるICTの活用がわが国の成長戦略に欠かせないものとなっています。

当社は、経営環境の激しい変化を踏まえ、事業ビジョン「ビジョン2015」のもと、“Global ICT Partner”というスローガンを掲げ、経営構造をグローバルシームレスに変革し、世界中のお客さま

にとって最適なパートナーとして選ばれるようグループ一丸となって取り組んでおります。

2013年度は、「ビジョン2015」達成に向けた事業構造の転換と成長を加速する年と位置付け、「Global Cloud Vision」のもと、グローバル、クラウドといった成長事業をしっかりと軌道に乗せていくことを目指し、グローバルシームレスなサービスの展開、サービスラインアップの拡充を図ってきました。

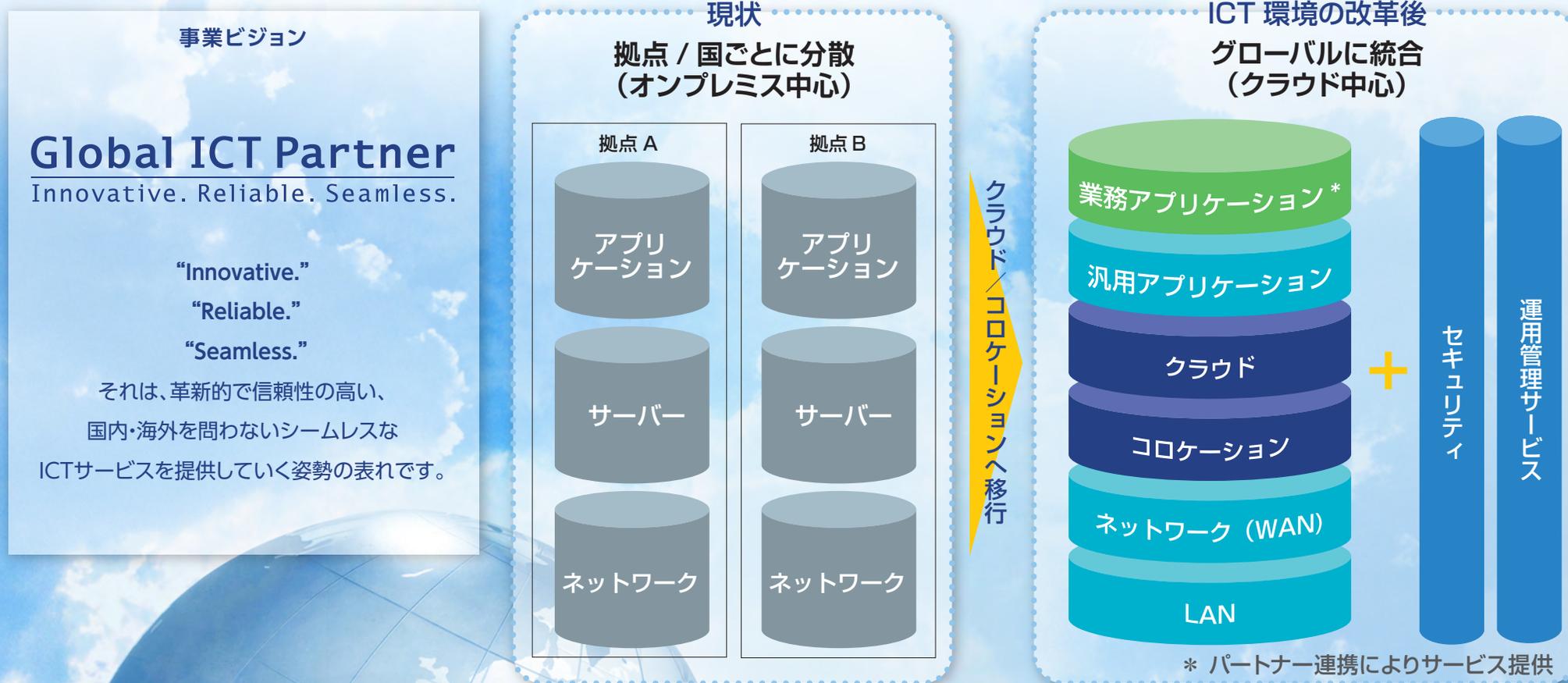
NTTコミュニケーションズグループは、全世界のお客さまをはじめ、ステークホルダーの皆さまとの関わりによりなりたいと思っています。

今後も、“Global ICT Partner”としてふさわしいCSR活動に取り組み、社会の課題解決および持続的発展への貢献に、引き続き精進してまいります。

事業とCSR 事業ビジョン

「つなぐ」パートナー

お客さまICT環境のクラウド化/データセンターへの移行を契機に、クラウドだけでなく通信事業者ならではの企業向けサービスを組み合わせ提供することで、グローバル共通品質の様々なサービスを組み合わせお客さまICT環境を最適化し、経営改革に貢献します。



事業概要

お客さまが世界中どの国においても、ビジネスを安心して推進できるよう、「Global ICT Partner」として、高品質のICT環境をご提供します。



香港
ファイナンシャル データセンター



日本
東京第6データセンター



アメリカ
カリフォルニア サクラメント1 (CA1)
データセンター



イギリス
スラウ 2 データセンター

Europe

Japan

Asia

America

Nexcenter

全世界 130拠点

サーバールーム総面積 251,000m²

(2014年6月現在 計画中のものを含む)

*データセンター品質評価基準の
最高グレード「Tier IV」設計認証

事業概要

グローバルなICTサービスを ワンストップでご提供しています。

業界最高レベルの高品質な設備と全世界統一のオペレーションにより、コロケーションサービス、ホスティングサービス、ネットワークサービス、セキュリティサービスなどをグローバルシームレスに提供し、全世界のお客さまから選ばれるパートナーを目指します。

海外現地ヘルプサービスと組み合わせ、万が一の回線障害時でもお客さまのビジネスへの影響を最小化する常時監視を実施しています。

他社サービスも含めたICT環境全体に対して、監視・トラブル復旧・原因究明・対策検討・変更管理まで国際標準であるITIL*に準拠したトータルオペレーションをご提供します。

* Information Technology Infrastructure Libraryの略。ICTサービスの運用・管理におけるベストプラクティス、ノウハウをまとめた書籍群として、業界標準として認知されている。

災害に強く、先進の省エネ性能を備えた高品質で環境負加を低減した次世代グローバルデータセンターサービスをご提供します。

データセンター



システム/ネットワーク両面から

最適なソリューションをワンストップ で提供します。

ネットワーク
監視



トータル
オペレーション



海外拠点
ソリューション



海外拠点のネットワークからLAN、サーバの設計・構築、アプリケーションまで、いかなる脅威にも対応する安心・安全なグローバルICT環境をお客さまにご提供します。

ICTアウト
ソーシング



お客さまの企業規模・ニーズに合わせて、高品質・安心・安全・簡単にご利用いただけるICTシステムを構築するだけでなく、その運用管理・セキュリティ対策など、お客さまのICT要員になり代わり対応します。

セキュリティ
コンサルティング



設計から導入・運用まで、経験豊富なセキュリティコンサルタント・エンジニアによる専門性の高いセキュリティサービスをご提供します。

特集

世界で選ばれる、 真のGlobal ICT Partnerへ。



特集 1 → p08

全世界共通のマネジメントサービスで、 ワンストップICT環境を実現

世界中に拠点を置き、グローバルに事業展開する企業のICT環境をサポートします。



特集 2 → p10

世界標準の建物環境評価「LEED」を 各国データセンターで取得

さまざまな環境負荷低減施策に取り組み、データセンターのグリーン化を促進します。



特集 3 → p12

グローバル規模での人材交流の拡大

世界各国の人材が交流し、新たなサービス創出の可能性が広がっています。



Global ICT Partner

社会への
貢献全世界共通のマネジメントサービスで、
ワンストップICT環境を実現

「グローバルクラウドビジョン」を掲げるNTTコミュニケーションズは、2013年11月、ICTマネージドサービス「Global Management One」の販売を開始しました。グローバルに展開する企業のICT環境全体を全世界共通のサービス・品質・料金でサポートし、企業のシステム部門にかかるICT管理業務の負担とコストを大きく低減します。



社会的課題

グローバル化にともなう
社内システム運用の負担増が
企業の課題に

グローバルな事業展開にともなう拠点の増加やM&Aなどによって、企業のシステム部門がカバーする範囲は拡大し、ICT管理業務に関わる負担増が課題になっています。事業ラインや国・地域・拠点ごとに個別のシステムが構築・運用されている場合も多く、特に海外ではICT要員の流出や個人のスキル・ノウハウに依存した運用などによって、セキュリティリスクの増大も懸念されています。

こうした負担やリスクによって、ICT要員が戦略的な業務に関わりづらくなるなどの課題から、セキュリティを含むトータルなオペレーションサービスが求められています。

Global
Management One

「Global Management One」の特徴

- **ICT環境全体をカバーするサービスをワンストップで提供**
このサービスでは、全世界に広がるお客さまのICT環境全体(アプリケーションから、クラウド、ネットワークまで)運用管理業務の経験豊富なNTTコミュニケーションズのエンジニアがワンストップでサポートします。また、企業は自社のICT環境や用途に応じて、必要なメニューを組み合わせることができ、本サービス導入によって運用コスト削減が可能になります。
- **運用プロセスを自動化し、システム障害時の検知から復旧までを高速化**
自動化によりヒューマンエラーを削減し、障害時の対応速度を大幅に向上します。本サービスで使用している自動化プラットフォームを用いることにより、障害検知から復旧対応までの運用プロセスを自動化し、最大で約6割のトラブルチケット*の削減が可能です。
- **世界に広がる複数のオペレーションセンターを通じてサービスを提供**
グローバルに展開するオペレーションセンターを活用し、24時間365日体制で多言語対応による広範囲なサービスを提供します。

* 大規模システムの保守管理やカスタマサービスに利用する障害情報管理システムにおいて、各種の障害情報管理をデータ(チケット)として記録し、プロセスの状態を把握する概念・仕組み。

社会への
貢献

全世界共通のマネジメントサービスで、ワンストップICT環境を実現

CASE STUDY

世界400拠点でグローバルに事業展開するA社のICT環境をトータルにサポート

グローバルでのICT運用の効率化を求めているA社さまにとって、NTTコミュニケーションズは、「Global Management One」により、グローバルなICT環境整備のコスト削減を実現し、A社さまのICT環境をトータルにサポートしています。

お客さまの要望

グローバル化にともなう経営課題を
ドラスティックに解決

A社さまは、M&Aによって全世界に拠点を拡大し、世界400拠点で事業を展開されています。しかし、M&A先によって構築されているICT環境はバラバラで、事業部や拠点によって異なっていました。さらに国・地域によってセキュリティ環境も異なるなど、グローバル化にともなう拠点増加によってさまざまな課題を抱えていらっしゃいました。

そうした課題を解決するため、グローバルなICT環境の標準化や統一したセキュリティポリシーによるICTガバナンスの実現の一方で、拠点ごとに異なるニーズにも柔軟に応えられるワンストップサービスを要望されていました。

ソリューション

ICT環境の標準化と各国・地域ごとの運用課題の解決を実現

「Global Management One」では、各サービスをモジュール化することで、拠点のニーズに合わせてICT環境の管理・運用に必要なサービスを選択することができます。さらに、国際標準であるITILに準拠していることから、A社さまはグローバルシームレスで高品質なサービスを低コストでご利用いただいています。

さらに世界中のオペレーションセンターの連携によって提供している多言語のヘルプデスクは、「母国語で対応してもらえる」「安心して本来の業務に取り組める」など、従業員の安心感を生む効果も生まれています。



キーパーソンからの声

このプロジェクトは、データセンターの構築からネットワーク、クラウド、セキュリティサービスの提供とサービスの範囲が広いのが特徴です。また、お客さまの拠点がグローバルであるため、NTTコミュニケーションズのグローバルな拠点(アジア、アメリカ、ヨーロッパ)より、さまざまな部門のスタッフが参加しています。



第四営業本部/
第七グループ
吉田 征広

多くのスタッフが携わり、グローバルに広範囲なサービスを提供するため、いろいろな課題が生じることがありますが、拠点を越えて意見を交換しながら、課題解決にチャレンジしています。

地球環境
保護世界標準の建物環境評価「LEED」を
各国データセンターで取得

NTTコミュニケーションズは、世界各国で展開しているデータセンター(以下、データセンター)の環境負荷の低減に取り組み、世界標準のグリーンビル認証「LEED」*1の認証取得を進めています。

*1 Leadership in Energy and Environmental Designの略:米国グリーンビルディング協会による建物全体の環境性能の認証制度。

Nexcenter

香港 ファイナンシャル
データセンターインド チェンナイ
データセンターシンガポール セラグリーン
データセンター香港 タイポ
データセンターカリフォルニア サクラメント 1&2
データセンターマレーシア サイバージャヤ 3
データセンターバージニア アッシュバーン1
データセンター

社会的課題

環境性能の高さが
データセンター選択基準の一つに

世界中のお客さまが環境負荷低減に理解を示し、その活動に取り組まれている中、莫大な電力を消費するデータセンターの選択でも、高信頼性はもちろん、高い環境性能が重要な要素になっています。その選択基準の一つが、グリーンビル認証評価の世界標準「LEED」*1です。NTTコミュニケーションズでは、世界各国のデータセンターで環境負荷低減に取り組み、LEED認証の取得を推進し、お客さまの満足度とコスト削減につながる「グリーンICT」を目指しています。

ソリューション

最先端の環境負荷低減技術を導入

空調関連

サーバールーム内の温度を「見える化」し、自動で温度を制御する「SmartDASH*2」や、空調の冷氣とICT機器からの排熱を分離し冷却効率を向上させる「アイルキャッピング*3」、冷たい外気を利用して効率よくICT機器を冷却させる「外気冷房」などの導入を進め、空調電力を削減しています。

*2 「SmartDASH」は米国Vigilent社の登録商標です。

*3 「アイルキャッピング」は、株式会社NTTファシリティーズの登録商標です。

照明関連

LEDや人感センサーを利用し、照明の消費電力を削減しています。

その他

太陽光や風力など自然エネルギーの利用を促進しています。また、AC/DCの変換ロスを減らし、ICT機器へ効率よく給電するHVDC(高電圧直流給電)や、電力損失が少ないロータリーUPS(無停電電源装置)を導入しています。

地球環境
保護

世界標準の建物環境評価「LEED」を各国データセンターで取得

CASE STUDY

さまざまな環境負荷低減施策に取り組み、データセンターのグリーン化を促進

各国のデータセンターでは、さまざまな仕組みやシステムを導入することで、施設運営に関わる消費電力の節減や省エネルギー、省資源、植物などの活用により、環境負荷の低減を目指しています。

認証基準の基本分野

建物・敷地全体で環境負荷低減

屋上の緑化

太陽熱の遮熱効果によって屋内の空調電力節減に貢献します。



緑地の確保

緑地、自然生態系の保全を確保するとともに、植物の蒸散効果等により敷地全体の気温上昇を抑制します。

自転車・電気自動車・
公共交通機関の利用促進

駐輪場のほか、駐車場には電気自動車の充電スペースを設置し、環境負荷低減効果の高い車両の利用を促進します。



認証基準の基本分野

水資源の効率的な活用

透水性舗装面

雨水を地中に浸透・還元させて地下水へ還流します。



井戸水、雨水などの利用による水資源の節約

井戸水や再生水を水冷空調システムの冷却水に活用します。雨水は植栽への水散布に利用します。



認証基準の基本分野

エネルギー

再生可能エネルギーの利用促進

太陽光発電や太陽熱、風力発電の利用を促進します。



認証基準の基本分野

原料・資源

建物自体の環境対応

建物内部・事務室の内装などに再生材を利用。資材・機材運搬に使う木枠などにも再生利用します。



人材の 尊重

グローバル規模での人材交流の拡大

2011年、新たな事業ビジョン「ビジョン2015」のもと、国内外でシームレスな事業展開を推進しているNTTコミュニケーションズグループにとって、グローバルな人材を育成し、活躍を推進することは不可欠になっています。

外国籍学生の海外現地での採用や日本への出向受け入れ、海外トレニープログラムなどによって、グローバル規模の人材交流を拡大させることで、多様な人材の能力や個性、価値観を企業経営に活かすダイバーシティマネジメントに取り組んでいます。



社会的課題

多様な価値観・能力を 企業経営に活かすために

急速かつダイナミックに変化していく事業環境に柔軟に対応し持続的な成長を続けていくためには、グローバル人材基盤の強化が欠かせない要素となっています。

しかし、国内では少子化によって、今後労働力人口の減少は避けられません。また、グローバル化した社会・経済の中で、社会や企業は世界との共生と生き残りをかけた戦略と柔軟性を必要とされており、私たち自身もさまざまな意味で変革を迫られています。

世界規模で事業を展開されているお客さまのニーズにお応えし、真に選ばれる「Global ICT Partner」となるために、多様な人材が持つ価値観・能力を生き活きと発揮できる企業風土づくりが求められています。

ソリューション

“Global One Team”をキーマッセージに グローバルな人材の活躍を推進

国や地域を越えて互いの価値観や立場の違いを理解し、多様な人材を企業経営に活かしていくために、「Global One Team」をキーマッセージにしたグローバル人材マネジメントを推進しています。

国内採用市場に限らず、世界中から多様で優秀な人材の採用活動を展開しています。日本の大学に留学している外国人留学生や海外大学卒の日本人に加え、成長市場であるアジアの学生を対象にして現地のジョブフェアや大学での採用活動を展開しています。

また、海外現地法人社員の日本への出向(2年または6カ月)受け入れの拡大や、日本の社員が海外現地法人でビジネスを経験する海外トレニーなどによる人材交流を活発化させています。2011年7月からは、若手社員を海外の現場に派遣し、グローバルに活躍できる人材を育成するプログラムも実施しています。

人材の
尊重

グローバル規模での人材交流の拡大

CASE STUDY

世界各国の人材が交流し、新たなサービス創出の可能性が広がっています

グローバル人材マネジメントの推進による人材交流で、新たな文化や価値観に触れる機会を持った社員が、その経験を糧に、個々の持ち場で、「国内外シームレスなICTサービスで豊かな社会と安心で快適な生活の実現に貢献する」というミッションに挑戦しています。

海外トレイニープログラム経験者の声

入社5年目にタイの現地法人に1年間海外トレイニーとして派遣され、近隣国の支店立ち上げに関わりました。入社当時から憧れていた海外トレイニーですが、業務経験を積む中で海外最前線におけるNTTグループの国際ビジネスをけん引できる人材になりたいと具体的に考えるようになりました。経験を通じ



櫻井 芽生
2007年入社

て良かったのは、現地の市場を鑑みつつサービスの付加価値を高めることができるか視点を養い、かつ本社でのナレッジを展開できたこと。帰国後は欧米を中心にクラウドサービスの立ち上げに携わっていますが、このような海外経験をしていなかったら以前と同じように日本側の目線のみでサービスを考えていたかもしれません。また海外の現場へでることに挑戦し、世界中のメンバーとともにサービス開発や展開に貢献していきたいです。

外国籍社員の声

韓国でNTTコミュニケーションズの採用活動があり、もともと通信事業に興味があったことや、私の日本語のレベルでも入社後に日本語を学び、できることがあれば挑戦してみたいと思ったのが、入社のも動機です。法人営業に携わり、その仕事がグローバルな案件であればなお良いと考えていた私にとって、海外のお客さまの来日時に当社のビジネスを紹介する機会に恵まれるなど、現在の仕事内容のほとんどが希望と合致しています。社内コミュニケーションは壁がなく、同僚たちは気軽に声をかけてくれます。当社の海外事業の拡大に貢献するため、今後、日系企業だけでなく、世界各国の現地企業と仕事してみたいと思っています。



ソ ヒョンジェ
2013年入社

海外現地法人社員の声

NTTコミュニケーションズベトナムで働いていた友人から、活気があって能力を高められる会社と聞き、自分が成長できる可能性を信じて入社しました。エンジニアとして7年ほど働いた後、自ら希望して業績向上に貢献できる営業に転向。ビジネスのパイプラインを広げたいという想いから、短期出向プログラムを利用し、半年間、本社で働く機会を得ました。日本では良い意味で期待を裏切られました。多くのチームメンバーは日本人も英語が話せ、多くの国の人材が採用やプログラムを利用して働いていましたし、女性管理職の多さにも驚きました。こうしたダイバーシティをさらに広げ、人の行き来を活発にさせていけば、グローバルな視野を持ちつつ現地に密着した新たなサービスが生まれる可能性は大きいと感じています。



Quang Tran
2006年入社

CSRの重点領域

重点領域に即した2013年度の主な活動をご紹介します。

常務取締役
CSR委員長

森 清



| | 特に重視している項目 | 社会の問題・注目点 | 2013年度の主な活動 |
|--|---|--|---|
| <p>社会への貢献</p> <p>私たちは常に社会から信頼されるよう行動します。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● ユビキタスネットワークインフラの整備 ● 重要インフラとして高い安定性と信頼性の確保 ● 社会貢献活動 | <ul style="list-style-type: none"> ● セキュリティリスク管理 ● 消費者課題 ● 労働慣行 ● コミュニティ参画 | <ul style="list-style-type: none"> ● セキュリティオペレーションのグローバル展開 ● 海外パートナーキャリアとの品質向上会議 ● NTTアメリカの社会貢献活動 <p>その他の取り組み ▶</p> <p>http://www.ntt.com/csr/report2014/data/st_index.html</p> |
| <p>地球環境保護</p> <p>私たちは美しい地球とそこに生きるすべての生物の共存に寄与します。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 温暖化防止 ● 廃棄物削減 ● 紙資源削減 ● 生物多様性の保全 | <ul style="list-style-type: none"> ● 環境問題 | <ul style="list-style-type: none"> ● 世界標準の環境評価「LEED」を各国データセンターで取得 ● 「東京第6データセンター」を提供開始 ● 海洋生態系の保全活動 <p>その他の取り組み ▶</p> <p>http://www.ntt.com/csr/report2014/data/en_index.html</p> |
| <p>人材の尊重</p> <p>私たちはお互いを信頼・尊重し、自己実現を図るのにふさわしい環境をつくります。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 多様性の尊重と機会均等の推進に向けた取り組み | <ul style="list-style-type: none"> ● 人権問題 ● 少子化対策 | <ul style="list-style-type: none"> ● プロフェッショナル人材育成 ● グローバル人材マネジメント(GHRM)の取り組み ● 外国籍学生の採用を強化 ● 多様な人材のキャリア開発支援 <p>その他の取り組み ▶</p> <p>http://www.ntt.com/csr/report2014/data/of_index.html</p> |
| <p>ガバナンス</p> <p>私たちは経営の透明性と健全性を確保することを最重要課題として位置づけています。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ● 情報セキュリティの確保 | <ul style="list-style-type: none"> ● サイバー攻撃 ● 組織統治 | <ul style="list-style-type: none"> ● 情報システムの脆弱性診断を実施 ● グループ会社・海外現地法人のセキュリティ調査などを実施 <p>その他の取り組み ▶</p> <p>http://www.ntt.com/csr/report2014/data/management.html</p> |

活動
ハイライト

領域

1

社会への貢献



CSR調達の推進

人権や環境への配慮、製品やサービスの品質・安全性の確保など、社会の要請に配慮した調達について、「サプライチェーンCSR推進ガイドライン」*に定めています。

2013年12月に制定された本ガイドラインにもとづき、主要なサプライヤーの皆さまには取り組み状況についてアンケート調査にご協力いただくなど、CSR活動を推進しています。

*サプライチェーンCSR推進ガイドラインの内容

| | |
|----------|--------------------------------|
| 人権・労働 | ・強制労働/児童労働の禁止 ・団結権/団体交渉権の尊重 |
| 公正取引 | ・汚職/賄賂の禁止 ・知的財産の尊重 |
| 安全衛生 | ・工場の安全対策 ・労働災害/労働疾病対策 |
| 品質・安全性 | ・製品の安全性の確保 ・品質マネジメントシステムの構築 |
| 環境 | ・有害な化学物質の管理 ・資源/エネルギーの有効活用 |
| 情報セキュリティ | ・個人情報の漏えい防止 ・情報システムの防衛策 |

NTTアメリカの社会貢献活動
City Year New Yorkとともに
社会奉仕デーを開催

NTTアメリカは、社会貢献に向け、NTTコミュニケーションズのCSR活動の枠組みの中で「企業の社会的責任プログラム」に取り組んでいます。

地域美化の一環として、NTTのグループ会社であるDimension Data社とともに、公立学校の子どもたちのための遊び場づくりに取り組むNGO「City Year New York (シティ・イヤー・ニューヨーク)」の慈善活動を毎年、支援しています。

2013年も5月に、City Year New Yorkが選定した非営利団体「Harlem Grown (ハーレム・グロウン)」の活動を支援するため、協働で社会奉仕デーを開催。



社会奉仕デーの様相

ニューヨークのハーレムで地域社会に利益をもたらす新しいコミュニティガーデンづくりとその維持・保存のための活動を行いました。

NTTアメリカの社会貢献活動
オクラホマ州ムーアの竜巻被害支援のために、
アメリカ赤十字社に寄付

オクラホマ州ムーアについては、町を破壊した竜巻によって多くの市民が言いようのない絶望感に襲われ、その生活は大きく破壊されました。ムーアの町を支援し、被害を受けた地域を再建するため、NTTアメリカは従業員を代表してアメリカ赤十字社に寄付を行いました。これまでの数年間、アメリカ赤十字社はNTTアメリカが優先して寄付を行ってきた団体の一つであり、NTTアメリカはムーアや大型ハリケーンのサンディなどの自然災害への数回の寄付のほか、他の慈善活動を行っています。

活動
ハイライト領域
2

地球環境保護

バラスト水管理による海洋生態系の保全

積み荷を積載しないで航海する運搬船は、船の安定性を保つために「バラスト水」と呼ばれる海水を船底に注入して出港し、貨物を積み込む港で、このバラスト水を放出します。そのため、その海域には生息しない水生生物や微生物が多国間で移動するケースが起り、海洋生態系への影響が懸念されています。別の海域に持ち込まれた外来種は急速に繁殖し、在来種による生態系を破壊するばかりでなく、地域経済や人にも被害を及ぼすからです。例えば日本でも赤潮プランクトンや外来カニなどによる漁業被害、海岸汚染が発生しているほか、南米では1991年、コレラ菌の移動による深刻な人的被害が発生しました。

そのため国際海事機関(IMO)では、2004年にバラスト水を管理する条約*を採択し、国際航海する船舶に対する規制推進に取り組んでいます。

ケーブル敷設船「すばる」を所有するNTT-WEマリンでは、2014年1月、IMO基準をクリアしたバラスト水

処理装置を同船に導入しました。二酸化チタン触媒に紫外線を当てることで発生するラジカル*によって微生物を死滅させる方式であり、化学物質を全く使用しないため環境負荷が最も低いとされる装置です。バラスト水の注入・排出時とも殺菌処理することで、生態系への影響を排除することができます。

今後もNTT-WEマリンでは、海洋生態系の保全に積極的に取り組んでいきます。

- * 条約:船舶のバラスト水および沈殿物の規制および管理のための国際条約
- * ラジカル:微生物の細胞膜を破壊し死滅させる不対イオン。超高層ビルの壁面や自動車にも応用されている。ラジカルの有効寿命は数ミリ秒と僅かのため、有害な残留物も発生しない

奄美大島で渡り鳥の観察場所を提供

2012年9月から、毎年、鹿児島県奄美市にあるNTTコミュニケーションズの無線中継所内で、地元のNPO法人「奄美野鳥の会」が、タカ的一种「アカハラダカ」の渡り観察会を実施しています。無線中継所は重要な通信インフラであり、通常は立入禁止ですが、観察に適した立地であるとの要請を受け、社員立ち会いのもとで

行っています。

アカハラダカは小型のタカで、朝鮮半島や中国大陸で繁殖し、東南アジアへ渡って越冬する途中の秋頃に九州付近を通過します。奄美野鳥の会は3回にわたって観察会を実施し、うち1回は2,000羽以上の大群の渡りを確認することができました。

食物連鎖の頂点に位置するタカは生態系全体の健全度を示す指標生物とされ、タカの渡り数の変化は、生態系を知るうえで重要な指標の一つとされます。私たちは今後も、生態系の保全へとつながるさまざまな活動に協力していきたいと考えています。



アカハラダカの渡り

活動
ハイライト領域
3

人材の尊重



女性キャリア開発支援

NTTコミュニケーションズでは、多様な人材が生き生きと働く機会を実現するために、さまざまなステージにおけるキャリア開発支援を行っています。2013年度は、女性社員のキャリア開発に関する働きかけを重点的に展開しました。

女性社員のキャリア開発に向けた取り組みとしては、主に以下3点の取り組みを行いました。

- (1)女性管理者交流会の実施による、管理者自らのロールモデルマインド醸成とネットワーク強化
- (2)メンタリング活動の始動による、キャリアに関する悩みの解決と若い時期からの中長期的なキャリア形成
- (3)女性社員が女性管理者と対話する場(Open Cafe)



Open Cafe



キャリアデザインセミナー

の開催による、キャリアの棚卸と将来像のイメージ化施策に参加した社員からは、女性管理者にもさまざまなタイプと多様な価値観があり、自身の今後のキャリアを考えるうえで大変参考となり励みとなった、との感想があり、今後も女性管理者を中心としてさらなる女性社員活性化に対する働きかけを行っていききたいと考えています。

仕事と育児・介護の両立支援

NTTコミュニケーションズでは、次代の社会を担う子どもが健やかに生まれ、育成される環境の整備を行う「次世代育成支援対策」を進めるため、社員の仕事と子育ての両立を図るための環境の整備や、子育てをしていない社員も含めた多様な労働条件の整備などに取り組むにあたり、「一般事業主行動計画」を策定し、目標達成のために継続して取り組みを進めています。

次世代育成支援対策推進法*にもとづいた第一次行動計画(2005年4月1日～2008年3月31日)および第二次行動計画(2008年4月1日～2011年3月31日)の取り組みがそれぞれ評価され、厚生労働省東京労働局

より「2008年・2011年度認定事業主」として認定されました。

現在、第三次行動計画(2011年4月1日～2015年3月31日)を策定し、社員一人ひとりが生き生きと働くことができ、多様な働き方を互いが受容し理解し合える職場環境づくりを継続して進めています。

*次世代育成支援対策推進法：次代の社会を担う子どもが健やかに生まれ、育成される環境の整備を行う「次世代育成支援対策」を進めるため、国や地方公共団体による取り組みだけでなく、101人以上の労働者を雇用する事業主は、「一般事業主行動計画」を策定し、速やかに届け出なければならないとし、雇用する労働者が100人以下の事業主には、同様の努力義務があるとされています。



キャリア継続プログラム(託児所支援)



異業種交流育児休職者セミナー



時間勤務者研修

CSR報告について

編集方針

本報告書は、NTTコミュニケーションズグループのCSR(企業の社会的責任)について、「Global ICT Partnerとして、情報通信サービスの提供を通じ、グローバル規模で社会の新たな価値創造や問題解決に取り組み、豊かで持続可能な社会の実現に貢献していく」活動であると位置づけ、グループとして取り組む姿勢・活動を、さまざまなステークホルダーの方々にわかりやすくご理解いただくことを目的に発行しています。

本報告書では、より正確な報告を期し、NTTコミュニケーションズグループ全体を指す場合は「私たち」、NTTコミュニケーションズやグループ各社を単独で指す場合は、その社名を表記しています。

報告書のプロフィール

●参考にしたガイドライン

GRI(Global Reporting Initiative)
「サステナビリティ・レポート・ガイドライン
第3版、第4版」
環境省「環境報告ガイドライン2012年版」(webより)
環境省「環境会計ガイドライン2005年版」
ISO26000:2010「社会的責任に関する手引」
※GRIガイドラインおよび環境報告ガイドラインと本報告書の対応については、Webで公開しています。

●第三者意見について

CSR活動をより良いものにしていくために、外部の有識者より毎年、第三者意見をいただいています。

●対象範囲

本報告書は、NTTコミュニケーションズグループCSR基本方針にもとづき、CSR活動を報告するうえで重要な組織「NTTコミュニケーションズおよびグループ会社」を対象としています。ただし、対象範囲の異なる報告は、個々に対象範囲を明記しています。

●対象期間

2013年度: 2013年4月1日～2014年3月31日
(報告の一部に、同期間の前後の活動と取り組み内容も含め掲載しています。)

●発行情報

発行日: 2014年10月
(前回発行:2013年10月、次回発行:2015年10月予定)

重要なテーマおよび掲載事項の選定について

本報告書では、NTTコミュニケーションズグループが重要と考えている情報、ならびに、社会からの要望が高くかつステークホルダーの方々が必要としている情報をバランスよくご提供するため、GRIガイドライン第3版の[重要性]報告原則などを参考に、下記の2段階のプロセスを経て掲載テーマを選定しています。

また、選定結果に即し、CSR重視経営の要点として重要度が高い情報はダイジェスト版に、より詳細な情報は詳細版に、それぞれ掲載することで、読者の関心に即した利便性の向上を図っています。

なお、2014年版では、ISO26000の浸透などを受けグローバルな企業グループとしてのCSRの浸透に関する説明性の改善を図ると同時に、事業の現場で進む社会への貢献の模索についても積極的な情報開示を心がけました。

●2段階の選定プロセス

段階1: 掲載を検討すべきテーマおよび事項を、以下から把握

- ・GRIガイドラインを踏まえた、従来からの掲載項目
- ・同業および周辺業種の各社が掲載しているテーマ
- ・ISO26000の発行にともない関心が高まりつつあるテーマ

段階2: 掲載項目を以下の6つの視点から選考

- ・CSRに関する専門家、専門機関の調査により特定された持続可能性の影響・リスク・機会に関するテーマ
- ・メディアにより頻繁に取り上げられたCSRに関するテーマ(社会的関心事)
- ・関連するステークホルダーが重視しているテーマ(従業員・お客さまへのアンケートなど)
- ・組織の主要な理念・方針(経営理念、「CSR基本方針」、「Our Business Principle」など)に関連するテーマ
- ・組織およびその事業活動などに関連する法規・規制や自主協定に関するテーマ(電気通信事業法、電気通信事業者協会の規則など)
- ・他社(同業他社・CSR先進企業など)が重要と考えるテーマ

報告媒体について

CSRサイト

<http://www.ntt.com/csr/index.html>

CSR活動の最新情報を随時更新。NTTコミュニケーションズグループ各社のCSR活動をご覧ください。

CSR報告書サイト

<http://www.ntt.com/csr/report2014>

「NTTコミュニケーションズグループ CSR報告書2014」の内容を網羅的に掲載しています。「ダイジェスト版」と「詳細版」の2部構成としつつ、媒体ごとに想定読者を意識し効果的な情報提供を目指しています。なお、2012年版よりICT企業ならではのCSR報告として、報告の電子媒体化を実施しました。

「ダイジェスト版」では、NTTコミュニケーションズグループのCSR活動の中から、より重要度が高い取り組みを一般の方でもわかりやすくご紹介いただけるよう紹介しています。

「詳細版」では、NTTコミュニケーションズグループのCSR活動事例や詳細データを網羅的に掲載し、多くの具体的な活動事例をご紹介いただける内容としています。

会社概要

会社名

エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社
NTT Communications Corporation

本社所在地

〒100-8019
東京都千代田区内幸町1丁目1番6号

営業開始日

1999年7月1日

資本金

2,117億円

従業員数

6,850人(2014年3月31日現在)

事業内容

電気通信事業等

世界で評価されている実績

■ IDC社のアジア太平洋地域のクラウド・DCサービスを評価するレポートにおいて「リーダー」に選出

■ 米ガートナー社のグローバル通信事業者評価レポートにおいて「リーダー」の評価

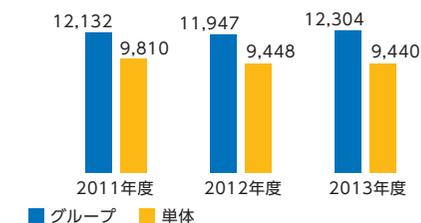
■ 英国Ocean82社の「国際データ通信サービスのグローバル顧客満足度調査」において最高評価となる「World Class」認定、および15項目で「Gold Award」を獲得



World-Classロゴ

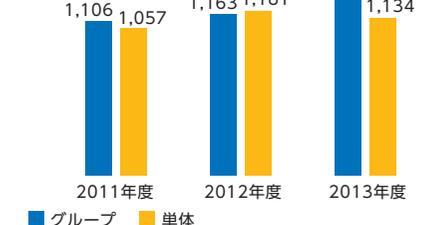
営業収益

(億円)



営業利益

(億円)



従業員数

(人)

